

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

インフレが進行している。スーパーやコンビニに行けば、諸物価が高騰しているのは明らかだが、政府による公式統計にもその動きは顕著だ。物価の動きを見るための指標としてよく利用されるのが、総務省が発表する消費者物価指数だ。変動が激しい生鮮食品を除いた指標でも3%前後のインフレが1年以上続いている。こうした動きを受けて、日本銀行も物価予想を先日改定し、来年も3%近い物価上昇を予想している。

## 金利と物価 資産価値に影響

の金額で購入できる商品の量が減るのだ。

インフレによる資産の目減りに敏感になっている人は多いようだ。最近、ドル預金に関心を持つ人が増えていると聞く。金融機関の中にもドル建ての預金を積極的に取り扱う所も出てきた。1年物の定期預金で5%を超えるような金利がつくような商品もある。

インフレが進行している米国では、金利が非常に高くなっている。このドル金利高騰を前提にすれば、5%を超えるような利回りを提供するドル預金が出てきてもおかしくない。問題は、そうしたドル預金に資金を回すことが好ましいかどうかだ。

ドル預金ということは、円をドルに替えたドル資金を運用する預金で、元本と利子はドルで支払われる。その時点で円に振り替えようとすると、円ドルレートが問題になる。もし円ドルレートに大きな変化がなければ、ドルでの5%の金利はまるまる円に替えることができる。

問題はドル預金を保有している間に大幅な円高(ドル安)に動いた時だ。現在150円前後である円ドルレートが130円ぐらいまで円高(ドル安)に動けば、ドル預金の円建てでの価値を10%以上棄損

することになる。せっかく高い金利を稼いでもドル安で為替差損を出しては元も子もない。

もちろん、円ドルレートが逆の方向に動けば話は別である。円ドルレートが160円の方角に動けば、高い金利に加えて、ドルでの為替差益まで獲得できることになる。要するに、ドル預金は為替レートの動き次第で損も得もするということがある。

為替リスクが大きいのでドル預金には手を出さないという人も多いだろう。一方で、5%の金利は魅力なので、為替リスクがあってもドル預金に投資することに関心が高いという人もいるだろう。資産運用には唯一の正しい答えというものはないので、リスクとリターンを評価しながら判断するしかない。

ただ、それにしてもただ円預金を持つているとインフレ分だけ資産価値が目減りするというのは不満が残る。5%とは言わないが、円建ての資産でももう少し高い金利を確保したいという思いを持っている人は多いだろう。定期預金でも安全性の高い債券でも、インフレへの対応手段となる運用先が増えていくことが望まれる。

## 論壇